

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2020年 2月 8日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」草加校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	②	職員の配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		・トイレへの通路が段差になっている。 →補助が必要になる場合は、保護者の方をお願いしている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・始業前に清掃を行い、清潔な空間づくりに努めている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・1年に1回、事業所アンケートを実施し、意向把握と業務改善に活かしている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・事業所アンケートを基に会議を行い、改善策を検討している。また、評価結果はホームページに掲載している。	・アドレスを重要事項説明書に記載しているが、事業所のホームページがあることが各利用者に周知されていない。 →お知らせにホームページのQRコードを記載し、アクセスしやすくなるようにする。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・実施していない。 →会社の方針に従う。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・定期的な社内研修を実施しているほか、県や市の研修にも参加している。	
適切な支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・1年に1回、アセスメントを実施している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			

の 提 供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・ガイドラインをファイリングし、職員がいつでも見直せるようにしている。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・個別支援計画を指導員に周知し、それに基づいたプログラムの立案をしている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・プログラムの立案、変更は随時全指導員で話し合っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している		○		・原則として支援は個別活動のみとなっているため、集団活動に関しては個別支援計画に入っていない。 → 集団の事業所のご様子や幼稚園・保育園でのご様子は随時伺っている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	関 係 機 関 や 保 護 者 と	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童の支援に入っている指導員が参加している。
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・相談支援事業所と随時連絡を取り合っている。	
㉓		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	（該当なし）	

の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	(該当なし)	
	㉑	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		
	㉓	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・支援は事業所内で完結し、外出等に行っていないため、他の児童との交流の機会は設けられない。 →職員が草加市障害児通所支援事業所連絡協議会のイベントに積極的に参加している。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉕	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	・草加市障害児通所支援事業所連絡協議会に参加している。	
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	・イベントで親子体操の機会を設ける等の取り組みを行っている。	
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉘	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	・契約の際に説明を行っている。	
	㉙	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	・契約やモニタリングの際に個別支援計画を提示して説明し、保護者からの同意を得ている。	
	㉚	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	・発達相談は随時各スタッフが受け付けている。	
	㉛	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・個別療育ということもあり、保護者同士の連携支援は実施していない。 →今後ママカフェの開催を企画していく。

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・月に1回以上、ホームページのブログを更新し、情報を発信している。	・ホームページを保護者に周知できていない。 →お知らせにQRコードを記載して、アクセスしやすくなるようにする。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		・支援は事業所内のみで完結しているため、スペースの都合から地域住民を招待できる行事を企画できない。 →草加市通所支援事業所連絡協議会のイベントに職員が参加している。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・月に1回、職員の避難訓練を実施している。 ・消防用設備の点検を外部の業者に委託し、定期点検と総合点検を行い、消防署に報告している。	・職員のみでの実施となっている。 →今後、児童を交えた避難訓練を企画していく。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・基本情報シートへの記載を保護者をお願いしている。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		・食事等を提供していないため、食物アレルギーに関する医師の指示書は集めていない。 →必要に応じて保護者の方に聞き取りを行うとともに、医師の指示書をいただくようにする。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			

④7	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している</p>		○	<p>・身体拘束に関するマニュアルを策定している。</p>	<p>・保護者への周知が徹底できていない。 →どういった場合に身体拘束が発生するか、契約の際に周知できるようにする。</p>
----	---	--	---	-------------------------------	--

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2020年2月8日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」草加校 保護者等数（児童数）：9 回収数：8 割合：88.9%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	8	0	0	0	・集中して個別で取り組むには十分だと思う。	
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	6	1	0	1		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	1	0	0		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8	0	0	0		
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	8	0	0	0		
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7	1	0	0		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8	0	0	0		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	5	3	0	0	・内容がほとんど変わらないように感じる。	・長期的に使用する課題は、保護者に説明した上で長く使用していく。 ・短期的に使用する課題は、声掛けや出し方の工夫で使い方に変化をつけていく。また、ねらいを達成できる課題を複数用意し、新鮮な気持ちで取り組めるようにする。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	0	3	3	・面談に参加してもらったことがある。	

保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8	0	0	0		
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	8	0	0	0		
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	3	3	1	1	・家族支援プログラムを行ったことはない。	
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7	1	0	0		
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	5	3	0	0	・計画の振り返り時に育児に関する相談をしている。	
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	1	2	3	・時間が合わず通常支援以外参加できていないため分からない。	
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	6	2	0	0		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7	1	0	0	・振り返りの時間に話している。	
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	4	3	0	1	・お知らせの紙などで、イベントの日程を伝えられている。	
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	7	1	0	0		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6	2	0	0	・緊急時の対応について説明を受けたが、訓練を行っているかは把握していない。	・実施状況をホームページのブログ等でお知らせしていく。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5	2	0	1	・緊急時の対応について説明を受けたが、訓練を行っているかは把握していない。	・実施状況をホームページのブログ等でお知らせしていく。
	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	6	1	0	1	・楽しんでいると思う。	

満足度	⑳	事業所の支援に満足しているか	6	2	0	0	・内容がほとんど同じなのが気になる。	・長期的に使用する課題は、保護者に説明した上で長く使用していく。 ・短期的に使用する課題は、声掛けや出し方の工夫で使い方に変化をつけていく。また、ねらいを達成できる課題を複数用意し、新鮮な気持ちで取り組めるようにする。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。